

九

雜

件

1 新南群島の日本領土への編入問題

1160

昭和12年12月17日

広田外務大臣より
在仏国杉村大使宛(電報)

新南群島に関して在本邦仏國大使から提出された覺書の内容およびこれに対する井上歐亞局長の対応振りについて

本省 12月17日後9時5分発

第四一六號

貴電第七四八號ニ關シ

「在京佛國大使ヨリ九日附書翰ヲ以テ左記要領ノ通申出アリタリ

佛蘭西ニ依ル「スプラトリ」群島(新南群島)占有問題ニ付昭和八、九年日佛兩政府間ニ話合行ハレ在巴里日本大使ハ九年三月佛蘭西外務省ニ對シ日本政府ハ爾後本件ハ落着(classée)シタルモノト考フル旨通報セラレタル處(當方ニテハ昭和九年二入り本件ニ關シ會談行ハレタル記録ナク尤モ同年三月佐藤大使ト佛首相及外相間ニ會談

アリタルモ新南群島問題ニハ全然觸レ居ラズ從ツテ此點ハ事實ニ反スト認メラルニ付貴方ニ於テ何等記録等アラバ折返シ回電アリ度)最近同群島巡航中ノ通報艦「デューモン、ドゥヴリール」ハ「イツアバ」島(邦名長島)ナガカ千谷^{チヤ}ヲ主任トスル在臺灣一漁業會社ニ屬スル十名餘ノ日本人ニヨリ占據セラレ居ルヲ發見セリ島上ニハ無電發信臺設置セラレ且日本國旗掲揚セラレ居タリ同人ハ「デュ」艦長ニ對シ同島嶼ニ關スル佛蘭西ノ權利ヲ承認スル能ハスト述ヘタルカ一方佛蘭西ノ正式先占紀念ノ爲昭和八年樹立セラレタル標識ハ破壞セラレ居タリ

佛政府ハ千谷及其ノ部下カ無智ニヨリ漁業ヲナシ且其ノ負ヘル責任ヲ了解セサリシナルヘキコトヲ考慮シ差當リ「デュ」艦長ニ左記ノ命令ヲ與フルニ止メタリ

(一)「イツアバ」島ニ紀念碑ヲ更ニ建設スルコト

(二)千谷及其ノ部下ニ右碑破壊ノ場合ニ伴フヘキ重大結果ヲ通報スルコト

(三)千谷ニ對シテハ書面ニテ彼ノ事業ニ關シ印度支那ノ法規ヲ遵守スル様指示スルコト就中印度支那ノ領土上ニ無電發信臺ヲ所有スルコトハ外國人ニハ禁セラレ居り右ノ使用ヲ拠棄スルニ非ンハ官憲ノ干渉ヲ受クヘキモノナルコトヲ通告スルコト

佛國政府ハ數週間以內ニ右指令ノ實行セラレタルヤ否ヤ

ヲ現地ニテ確ムル任務ヲ有スル一船ヲ派遣スルコトヲ留

保ス千谷及其ノ部下カ前記正式通告ヲ受ケタル後相當ノ

期間内ニ漁業、外國旗使用及無電臺ノ運用ニ關スル印度

支那ノ法規ヲ遵守セサルニ於テハ群島ヲ管轄スル印度支

那當局ハ右法規ヲ尊重セシムルタメ正當ナル一切ノ手段

ヲ執ルヘシ

三、次デ十四日「バルビエ」佛蘭西參事官井上歐亞局長ヲ來

訪シ前記書翰ニ付我方ノ注意ヲ喚起スルト共ニ速ニ回答

ヲ得度シト述ヘタルニ付局長ヨリ本件ハ目下考究中ニテ

未ダ回答ノ運ニ至ラサルモ自分一個ノ感想トシテ右公文

ノ基礎トナリ居ル佛國ノ主權ヲ日本側ニ於テ承認シ佛國

側先占ノ主張ヲ認メタルカノ如キ記述ハ全ク事實ニ反シ

何等カノ誤解ナルヘキコト問題ノ群島ニ對シテハ日本ハ

佛國ノ所謂先占ニ先ツ十余年來同群島ニ於テ現實ニ事業ヲ營ミ來リ投資モ相當ニ上リ居ル事實ニ基キ。權原ヲ主張シ佛國側先占ノ主張ヲ否認シ來レルモノニテ我方ハ現今モ亦繼續シテ事業ヲ經營シ居リ右ハ個人ノ事業ナルモノ本政府ノ了解ヲ得テ行ハレ來リタルモノナルコト及ビ委細ハ追テ公文ヲ以テ回答スヘキコトヲ述ヘ置キタリ

~~~~~

1161

昭和12年12月17日

廣田外務大臣より  
在仏國杉村大使宛(電報)

新南群島に關する仏國覺書の發出経緯および

わが方対応方針について

本省 12月17日後9時5分發

第四一七號(極祕)

往電第四一六號ニ關シ

一海軍側情報ニ依レバ本月四日佛國通報艦「イツアバ」島

ニ入港艦長外二名上陸シ千谷<sup>チヤ</sup>予備海軍大佐(形式上臺灣

海洋興業ナル漁業會社ノ社員トナリ居レリ)ニ對シ同島

ハ昭和八年以來佛領ニ屬スルヲ以テ之ガ視察、佛國旗ノ

再掲揚及當時ノ紀念碑確認ノ爲來航セル旨告ケタルニヨ

リ千谷ハ同島ノ佛領タルコトヲ認メ居ラズト答ヘ且佛ノ  
領有宣言ニ對シ帝國政府ハ之ヲ承認シ居ラズ邦人ハ以前  
ヨリ同島ニ於テ燐礦採掘ニ從事シ事實上同島ヲ日本領土  
トナシ居リタルモノナルヲ以テ今日同島ニ居住シテ漁業  
ニ從事スルハ當然ノ權利ニシテ帝國政府モ之ヲ承認シ居  
ル次第ナレバ異議アラバ帝國政府ニ直接交渉セラレ度ト  
ノ趣旨ヲ認メタル文書ヲ交付シタル後燐礦事業遺跡ヲ案  
内シタルガ艦長等ハ後刻上陸スル旨言遺シ諸設備ヲ撮影  
シテ歸艦セリ

三、「レジエー」ノ抗議及在京佛國大使ノ申入ハ右艦長ヨリ  
ノ報告ニ基キタルモノト認メラル處新南群島ノ歸屬ニ  
關シテハ昭和八年佛國政府ガ其ノ領有宣言ヲ通告シ來リ  
タルニ對シ我方ハ飽迄其ノ先占ヲ認メザルノ方針ヲ堅持  
シ來レルハ御承知ノ通ニシテ前記「イツアバ」島ニ於テ  
ハ帝國政府承認ノ下ニ一兩年前ヨリ邦人會社ニヨリ漁業  
營マレ小棧橋短波無電臺其他ノ施設行ハレ居ルモ右ニ對  
シ佛國政府ヨリ領土主權ノ侵害トシテ抗議ヲ受クル筋合  
ニ非ズ本件領有問題ニ關シテハ將來ニ於テモ飽迄從來ノ  
主張ヲ固執スル方針ナルヲ以テ今後先方ヨリ何等申出ア

1162

昭和十三年1月12日

広田外務大臣より  
在仏國杉村大使宛(電報)

## 新南群島に関する仏國覺書へのわが方回答について

## 付記

昭和十三年1月二十四日付在京本邦アンリ仏國

大使より広田外務大臣宛公信第二号和訳文

右わが方回答に対する仏側返信

本省 1月12日後9時10分発

## 第一六號(極祕)

客年往電第四一六及第四一七號ニ關シ

一、在京佛蘭西大使ヨリノ申入ニ對シテハ十一日附ヲ以テ左  
ノ趣旨ヲ回答セリ

(一)新南群島ノ歸屬ニ關シテハ昭和八、九年兩國政府間ニ  
話合行ハレタルハ事實ナルモ帝國政府ハ佛ノ先占ヲ承  
認シタルコトナク其ノ理由ハ當時在佛代理大使ヨリ詳  
細佛外務省ニ申入ノ通ニシテ其ノ後モ未ダ嘗テ佛ノ同  
島嶼領有ヲ認メタル事ナク從ツテ佛外務省ノ言フ如ク

昭和九年三月日本大使ガ從來ノ我方主張ヲ放棄セルヤ  
ノ感觸ヲ與フル言明ヲナシタリトノ點ハ事實ニ反スル  
コト

(二) 帝國臣民ノ同島ニ於ケル事業經營、無電臺設置及國旗  
掲揚ニ關シテハ帝國臣民八十數年以前ヨリ同島ニ於テ  
自由且障礙ナク事業ヲ經營シ來レルモノニシテ右事業  
ニ附隨シ氣象通報ノタメ必要ナル無電臺ヲ設置スルハ  
經營者ノ自由ナルベク又帝國臣民ガ自己ノ建造物ニ日  
本國旗ヲ掲揚スル如キハ當然ナルコト

(三) 佛艦長ニ與ヘラレタル指令ノ第一タル佛ノ先占記念碑  
再建立ハ佛ノ先占其ノモノニ異議ヲ有スル帝國政府ト  
シテハ之ヲ承認スル能ハズ第二ノ點ハ右ノ碑建設セラ

レザレバ問題發生セズ又第三ノ點ハ千谷ハ其ノ關係事  
業ニ關シ帝國政府ノ監督ニ服スヘク印度支那ノ法規ヲ  
遵守スル必要ナキコト

(四) 萬一印度支那當局カ帝國臣民ノ現地ニ於ケル事業及施  
設ニ掣肘、障碍ヲ與ヘントスル場合ニハ我方モ帝國臣  
民ノ權利保護ノタメ措置セサル可ラサルノ余儀ナキニ  
立至ルヘク折角日佛間ニ存續シ來レル友好關係ガ本件

ニヨリ阻礙セラルルニ至ルガ如キハ我方ノ最モ避ケム  
トスル所ナルニヨリ佛官憲ガ日本臣民ノ事業ニ對シ障  
碍ヲ與ヘラレザランコトヲ要請スルコト

二、本件ニ關スル我方ノ方針ハ佛ノ領有權ヲ飽迄否認シ問題  
ノ解決ヲ遷延セシムルト共ニ極力佛側ノ實力行動ニ出デ  
來ルヲ牽制シ以テ現地ニ於ケル我方ノ事業、施設ニ障礙  
ヲ受ケザラシムルニアリ依ツテ若シ先方ヨリ何等申出ア  
ラバ前記我方回答ノ趣旨ニヨリ應酬アリ度尙本件ハ仲裁  
々判又ハ司法解決ニ附スルコトハ極力避ケ度意向ナリ

冒頭往電ト共ニ英米ニ暗送アリ度

#### (付 記)

昭和十三年一月二十四日附新南群島問題ニ關シ  
在京佛國大使申入(第二號書翰)

(假譯)

書翰ヲ以ツテ啓上致シ候陳者佛國政府ハ新南群島ニ關シ  
下ヨリ御申越アリタル書翰ヲ諒承シ右文書ニ掲ケラレタル  
見解ニ對シ佛國政府ノ明白ナル留保ヲ帝國政府ニ對シナス  
様訓令越シ候

# 1 新南群島の日本領土への編入問題

新南群島ノ占有ハ一九三〇年四月十三日佛國海軍ニ依リ行ハレ、一九三三年四月七日ヨリ十二日迄ニ於テ國際法ニ定マレル手續ニ從ヒ完成セラレ、更ニ一九三三年七月十六日附佛國政府官報ニ依リ公式ニ公示セラレ候。

右群島ハ其時迄如何ナル國家ノ主權ノ目的物トナリタルコト無之佛國ノ占有前「無主物」ノ點ニ關シテハ何等異議ノ挿シハサマレタルコト無之候他國籍人ニシテ過去ニ於テ本群島ニ不規則的ニ活動ヲナセル者アルモ右私的事業ハ國際法上何等或一國ノ所有權問題ヲ惹起セルコト無之候（又右私的事業ノ最古ノモノハ日本人ノモノニアラス）

右ノ如キ見解ハ既ニ數回ニ亘リ又最後ニ一九三三年十二月十一日ニ於テ公式ニ駐佛澤田代理大使ニ對シテ説明セラレタルモノニ有之候、佛國政府トシテハ帝國政府カ右見解ニ

同意セルモノト看做セルハ一九三四年三月二十八日駐佛佐藤大使閣下ヨリ自發的ニ又明瞭ニ佛國外務次官ニ對シ帝國政府ニ於テハ本件ヲ取上ケルコトヲ中止シ今後ハ本件ヲ以ツテ解決セラレタルモノト看做スト聲明セラレタルニ依リ

益々ソノ確信ヲ深メタルモノニ御座候、又事實右日附ヨリ最近閣下ヨリノ御書翰ニ至ル迄即チ約四ヶ年ニ渡リ帝國政

府ハ新南群島ニ關シ何等異議ヲ挿シハサマレサリシモノニ有之候、佛國政府トシテハ茲ニ於テ本件ハ解決濟ミト看做シタル次第御座候、佛國外務大臣ハ數回ニ渡リ巴里ニ於ケル帝國政府官憲ニ對シ新南群島ノ佛國領有ハ同島ニ於ケル日本居留民ノ正當ナル經濟的利益ニ何等打擊ヲ及ホスモノニ非ラサルコトヲ繰リ返シ申シ述ヘタルモノニ有之候、佛國政府ハ右保障ヲ再ヒ公式ニ述フル用意ヲ有スルモノナルモ前記日本臣民カ佛領印度支那ノ法令遵守ヲ免除セシメラルヲ許容シ得サルヘク候、佛國政府カ右法令尊重ヲ要求スルノ權利ハ同群島ニ對スル佛國主權ノ原則自体ヨリ生スル所ニシテ右法令力承認セラル限リニ於テ其ノ適用上同群島ノ孤立及接近ノ困難等ノ事情ニヨル凡ユル斟酌力事實寛大ニナサレ得ルモノニ候。

佛國政府ハ帝國政府ト同様兩國間ニ於ケル友好關係維持ニ害ヲ及ホスヘキ凡ユル事件ノ防止ヲナシタキコト勿論ニシテ過去ニ於テ又昨年中日本ニ對シ示サレタル不變ノ友誼的態度ハ極東ニ於ケル佛國政策ノ大綱ヲ示スニ充分ナルモノニ御座候處カカル見解ハ日本側ニ於テ同様態度ヲ示サルルニ於テ始メテ理由附ケラルモノニ候、佛國政府ハ茲ニ法

律的ニモ精神的ニモ帝國政府ヨリ本件ニ關シ一九三四年在佛大使カ佛國外務省ニ對シ正式ニ申シ出タサレタル見解ヲ維持セラルルコトヲ期待スルモノニ有之候

以上申シ述ヘタル所ニヨリ閣下ニ於テ本件ニ關シ佛國政府ニ對シ同政府希望ノ保障ヲ與ヘラルルコトヲ疑ハサルモノニシテ右ノ保障アラバ佛國官憲ニ於テハ同島ニ最近住居シタル日本居留民ノ特殊地位ヲ充分和協的精神ヲモツテ考慮スルコトヲ得ルモノト確信致シ候

本使ハ茲ニ閣下ニ向ツテ重不テ敬意ヲ表シ候 敬具

編注 本文書の原文(仏文)は省略。

1163 昭和13年2月21日  
広田外務大臣より  
在日本アソリ仏國大使宛

新南群島に関するわが方の第二次対仏回答

歐三機密第九號

以書翰啓上致候陳者新南群島問題ニ關シ一月二十四日附第二號貴翰ヲ以テ御申越ノ趣閲悉致候  
佛蘭西政府ノ先占ヲ主張セラルル新南群島ニ關シ帝國政府

ニ於テ佛蘭西側ノ主張ヲ容認セザルノ態度ヲ持シ來リタル次第ナルヲ以テ前記佐藤大使會談以後更ニ改メテ我方主張ヲ貴方ニ申入ルル必要ヲ認メザリシモノニシテ右ヲ以テ帝國ガ貴國ノ主張ヲ默認セリトナサルルハ妥當ナラズト思考致候  
素ヨリ帝國政府ハ貴國トノ友好關係ノ維持増進ヲ顧念スルモノナルモ前記ノ次第ナルヲ以テ乍遺憾閣下御來示ノ保障ニ付佛蘭西政府ノ要請ニ應シ難ク又現ニ群島從業中ノ帝國

# 1 新南群島の日本領土への編入問題

臣民三付テモ佛領印度支那ノ法令ヲ遵守スベキ筋合ニ非ズ  
トノ見解ヲ有スルモノニ有之要之本年一月十一日附當方書  
翰記述ノ各點ヲ變改シ難キモノニ候

尙最近當方ニ達シタル情報ニ依レバ其後「イツアバ」島ニ

問題ノ諸島ガ佛國ニ屬スルカノ如キ文句ヲ刻ミタル或種構  
造物設ケラレタル趣ナル處帝國政府ニ於テハ右ヲ以テ佛蘭

西ノ主權ヲ確立スルモノト認ムルモノニ非ルト共ニ前述記我  
方書翰ニ本件紀念碑ノ建設ヲ承認シ難キ次第特ニ申述置候

ニモ不拘貴方官憲ニ於テ之ヲ建設セラレタルハ遺憾ニ存ス  
ル所ニ候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候  
敬具

昭和拾參年貳月廿壹日

外務大臣 廣田 弘毅

佛蘭西特命全權大使

「シヤルル、アルセーヌ、アンリ」閣下

(付  
箋)

昭和十三年二月十七日 海軍省軍務局

原案通ニテ異存無之候

上司ニ供覽スル都合アリ、發出前寫一通御送付相煩度

神(印)

東光事務官殿

編注 右付箋に対し「二月十八日寫送付シ置ケリ」、「陸軍ニ

テモ異存ナキ旨齊藤少佐ヨリ廿一日電話アリタリ」と  
の書込みあり。

1164  
昭和13年5月21日

在仏國杉村大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

## 新南群島に関する仏国外務次官との会談内容

報告

パリ 5月21日前發

本省 5月21日後着

第三〇六號

往電第三〇四號會談ノ際「レ」ハ新南島ノ件ヲ持出シ本件  
ニ關スル日本側「ノート」ハ同島ニ對スル自國ノ主權ヲ主  
張セラレサル一方佛國ノ主權ヲモ認メラレサル次第ニテ日

本ノ態度ハ了解シ難ク仲裁々判ニテモ持出スノ外ナキカト  
思考シ居レリ實ハ印支經由武器輸送禁止以來印支總督ノ立  
場困難トナリ「マンデル」植民大臣ニナリタル以來ハ强硬  
ニ外務省ニ本件解決方ヲ迫リ來リ今本問題ハ内政問題化ス  
ルニ至リ困惑シ居ル次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ我方カ  
速ニ主權ヲ確立セサリシハ國際關係ヲ無用ニ紛糾セシムル  
ヲ欲セサリシカ爲ニ過キスト察セラルルカ此ノ點ハ暫ク措  
クモ佛占據ノ當時我方ハ既ニ同島ニ百萬圓ノ投資ヲ爲シ數  
千噸ノ燐鑛ヲ有シタル次第二テ佛ノ遣方ハ三百代言式ト言  
フヘク又佛力同島ニ印度支那ノ法令ヲ適用シ例ヘハ無線ノ  
發信ヲ不可能ナラシメントスル如キハ既得權ノ侵害ト言フ  
ヘク殊ニ印度支那經由武器輸送問題ト本問題トノ間ニハ何  
等聯關關係ナシト應シタル處「レ」ハ佛ノ要求セル所ハ名  
義上ノ主權ニ過キス英國モ嘗テ同島ヲ占據シタルコトアリ  
トノ理由ニテ同島ヲ佛ヨリ買收セントスルノ意図ヲ有シ交  
渉年餘ニ及ヒタルカ佛之ニ應セサル爲遂ニ斷念シ佛ノ主權  
ヲ承認シタルコトアリ無線ノ發信ノ如キハ許可ヲ求メラル  
レハ支障ナク運用スルヲ得ヘク日本側ノ既得權ニハ毫モ觸  
レサル様取計フヘシ何レニスルモ前述ノ通り内政上極メテ

困難ナル立場ニ在ルニ付何トカ解決シ度ク其ノ旨東京ヘ傳  
達方願度キ旨申述ヘタルニ付本件ハ在本邦佛大使ノ手ニテ  
行ハレ居ル次第ナルモ佛外務省ノ苦衷ハ取次クヘシト答へ  
置キタリ

1165

昭和13年8月6日

宇垣外務大臣より  
在仏国杉村大使宛(電報)

新南群島へ建造物を建設せんとの仏國側の動  
きに対し同島より至急撤退するよう仏国政府

ヘ申入れ方訓令

別電 昭和十三年八月六日発宇垣外務大臣より在仏

国杉村大使宛第二六六号

新南群島に関する仏國の対日通告要領

本省 8月6日後0時30分発

第二六五號(至急)

七月下旬新南群島「イツアバ」島ニ佛船寄港シ安南人三〇  
名佛人巡查三名上陸シ木材、鐵材、箱、セメント、家畜、  
食糧品等ヲ陸揚シ其後同島ニ於テ永久的建造物ヲ建設シツ  
ツアル處右ハ佛國側ニ於テ此際一步ヲ進メ同島ニ新事實ヲ

## 1 新南群島の日本領土への編入問題

作ラントスルモノニシテ我方トシテ之ヲ默認スルコト能ハ  
サルノミナラス同島在住ノ邦人トノ間ニ不測ノ事端ヲ惹起  
スル虞ナキヲ保シ難キニ付キ巡查撤退及建造物ノ撤回ヲ希  
望スル旨至急佛當局ニ申入レ結果回電アリタシ尙モカ本月廿五  
日附公文ヲ以テ佛大使ヨリ本大臣宛別電第二六六號要領ノ  
通り申出アリタルニ付逐一之ヲ反駁シオク所存ナリ  
本電ノミ河内ニ轉電セリ

### (別電)

本省 8月6日後5時30分發

#### 第二六六號

一、新南群島ノ歸屬問題ニ關シ二月二十一日附公文所載ノ帝  
國政府ノ留保並ニ同群島ニ關スル日本ノ優先權ヲ承認ス  
ル能ハズ日本側主張ハ昭和八、九年在佛帝國大使館及佛  
外務省間意見交換ノ結果既ニ放棄セラレタルモノト思考  
ス

二、佛國政府ニ依ル公式先占以前日本臣民ガ同島ヲ開發セル  
ノ事實ハ日本ニ對シ同島ニ關スル權利ヲ賦與スルニ不十  
分ナリ國際法上無主ノ地ニ對スル主權ハ公ノ權力行使ノ

ミニヨリ取得シ得ラルモノニシテ帝國政府ノ主張スル  
邦人ノ活動ハ私的性質ヲ有スルニ過ギズ右活動ノ發生及  
進捗狀況ハ佛ノ正式先占ニ反對スベキ何等權利ヲ日本側  
ニ賦與スルモノニ非ズ之ニ反シ正式先占ニ關スル必要ナ  
ル形式ハ佛國政府ニ依リ適法ニ充タサレタリ  
三、日本ハ佛國ノ先占ガ國際法上實效的占有ヲ伴ハザルヲ理  
由トシテ主權獲得ニ不十分ナル點ヲ指摘シ居ル處國際法  
上確立セル判例ニ依レバ無主ノ地ハ之ヲ占有セル國家出  
現ノ瞬間ヨリ右國家ノ絕對處分ニ屬シ先占ハ其ノ瞬間ヨ  
リ完成シ占有ハ成就セルモノト看做サルベキモノニシテ  
右ハ一九三一年一月二十八日伊太利國王ガ「クリツパー  
トン」島ニ對シナセル判決ニ徵スルモ明ナリ  
四、之ヲ要スルニ佛國先占前ニ於テ本件群島ガ無主ノ地ナリ  
シコトハ一九二七年河内駐在日本領事ノ言明並ニ一九三  
三年十一月十八日澤田代理大使ヨリ佛外務省ニ對シ同島  
ヲ無主ノ地トシテ兩國政府ニ於テ相互ニ認メムコトヲ提  
案セラレタルニ鑑ミルモ明ニシテ他方佛國ノ先占ハ國際  
法上ノ原則及手續ニ基キ實行セラレタリ  
五、佛國政府ハ以上ノ事實ニヨリ帝國政府ガ佛ノ主權ニ關ス

ル反対ヲ放棄セムコトヲ確信シ同群島ニ對シ引續キ權利ヲ行使スルモ善意ノ私的權益ニ對シテハ狀況ニ依リ寛ナル措置ヲ許スベク唯佛ノ主權自体ガ問題トセラルルコトヲ容認スルヲ得ズ從ツテ佛國政府ハ不幸ナル事件防止ノ爲私的企业ニ從事スル日本臣民ニ對シ同群島ノ佛國歸屬ニ基ク義務ニ付通告セラレンコトヲ帝國政府ニ希望ス

1166

昭和13年8月12日

在仏国杉村大使より  
宇垣外務大臣宛(電報)

### 新南群島から撤退するよう仏国政府へ申入れ

について

パリ 8月12日後発

本省 8月13日前着

第五〇五號

貴電第二六五號ニ關シ(新南群島ヨリ佛人撤退方申入ニ關スル件)

十一日外相ニ對シ委細御訓令ノ次第ヲ申出テタル上佛國側ニ於テハ區々タル手續形式ノ末ヲ楯ニ取り新南島ノ領有權

ヲ主張セラルルモ斯ル遣口ハ絶海ノ孤島ニ多年占據シテ奮

鬪スル日本人ニハ利目ナシ從テ此ノ上如何ニ理窟ヲ捏ナラ

ルルモ事實ト實力トヲ枉クル能ハス要ハ日佛親善ノ大義ニ則リ日本側トノ間ニ無用ノ摩擦ヲ起ササル様注意セラルルニアリトテ大局的見地ヨリ佛國側ノ聰明ナル反省ヲ求メタルニ外相ハ日佛友好關係ノ維持ニ付テハ特ニ其ノ重要性ヲ認メ現ニ支那援助ノ問題ニ付テモ種々ノ障礙又ハ反対ヲ排シテ公正ナル態度ヲ堅持シ來リタル次第ニテ此ノ點ハ日本側ニ於テモ諒トセラレ度ク尙本件御申入ニ付テハ篤ト考究ヲ加フヘシト答ヘタリ尙十二日「マツシグリー」(「レジエ」休暇中)ニ同様申入レ置キタリ

1167  
昭和13年8月15日

宇垣外務大臣より  
在仏国杉村大使宛(電報)

### 新南群島に対する最近の仏国側動向に鑑み対

抗措置として記念碑建立のため敷設艦派遣について

本省 8月15日後7時40分發

第二七五號

往電第二六五號ニ關シ

一、抑々本件ハ佛側ニ於テ何等實際的關心ヲ示サザリシ過去

ニ於テ大正六年「ラサ」工業ハ既ニ探險ヲ行ヒ政府ノ承

認ヲ得テ事業ヲ開始シ又帝國政府ハ昭和四年特ニ軍艦膠

コイ

州ヲ派遣本群島ヲ測量探險セシメ引續キ開洋漁業會社ノ

漁業進出トナリ無線電信臺サヘ建立スル等我方占據經營

ノ既成事實嚴存セルニ拘ラズ佛側ガ昭和八年ニ至リ單ニ

一軍艦ヲ送リ一碑ヲ立タル後突如形式上ノ先占宣言ノ

「ゼスチユア」ニ依リ其領土權ヲ主張シ、我方ノ既成事

實ヲ以テ單ナル個人ノ行動ニシテ國家意志ヲ反映シ居ラ

ズト爲スハ不都合至極ナリ、我方ニ於テハ右占有ノ事實

ヲ形式的ニモ完備セシムル爲メ適當ノ機會ニ先占宣言ヲ

行フ筈ナリシカ佛側ニ於テ現狀ヲ破ルガ如キ積極的行動

ニ出ザル限り進ンデ事ヲ荒立ル手段ヲ差控ヘ(昭和九年

三月廿八日佛外務次官佐藤大使會談)主權ノ問題ハ未解  
決ノ儘將來ニ持越ス態度ニ出デ來リタル次第ナリ

二、然ルニ最近ノ佛側行爲ハ從來ト異リ積極的ニ本群島ニ既  
成事實ヲ作り上ゲ完全ナル領土權ヲ確立セムトスルモノ  
ナルニ付我方ニ於テモ之カ對抗上敷設艦勝力ヲ派遣スル  
ニ決シ同艦ハ本月九日「イツアバ」ニ入港巡查(五名)及

水兵ヲ上陸セシメ我方ノ新南群島發見及事業開始ノ經緯  
ヲ刻メル紀念碑ヲ建立スベク行動中ニシテ尙近ク燐鑛採  
掘ノ爲メ相當數ノ人夫ヲ派遣スル予定ナリ

三、勝力艦長ノ報告ニ依レバ其後佛側ハ「イツアバ」島ニ在

西貢「ブーチン」漁業會社管理人(安南人)、同社專屬無

電技師(佛人)及其他ノ安南人十六名ヲ置キ島ノ東端ニ無

線電信機及作業場約二百坪ヲ新築シツツアリ

四、我方トシテハ今日ト雖モ進ンデ事ヲ構フル意思ヲ有スル

モノニ非ルモ今ニ及ンテ佛側カ其主張ヲ強化セムカ爲新

事實ヲ形成セムトスルコトニ對シテハ之ヲ排撃スル方法

研究中ナリ

五、以上ノ事情篤ト御含ノ上御折衝相成リ結果回電アリ度シ  
河内ニ轉電シ河内ヨリ西貢ヘ轉電セシメタリ

~~~~~

1168
昭和13年8月19日 在仏國杉村大使より
宇垣外務大臣宛(電報)

新南群島からの撤退申入れに対し仏国外務次
官補がわが方の穩健なる対応を要望について

パリ 8月19日後発
本省 8月20日前着

第五十六號

貴電第二七五號ニ關シ（新南群島ヨリ佛人撤退方申入ニ關スル件）

十九日「マツシグリ」次官補ヨリ大臣ノ代理トシテ本使ニ

會見ヲ求メ來リタルニ付往訪シタル處先方ヨリ本件ヲ持出

シ現地ヨリノ報告ニ依レハ日本官廳ハ佛側派遣員ノ退去ヲ

要求スル等事態頗ル急迫シ居ル旨ヲ傳ヘ日本側ノ穩健ナル

取計ヲ切望シタリ依テ本使ハ冒頭貴電ノ趣旨ヲ詳細説明シ

タル上從來ノ佛國政府ノ遣方ハ一片ノ形式論ヲ盾トスルモノ

ナルニ反シ日本側ノ主張ハ確乎タル既成事實ニ基キ根據

ヲ有スルニ付佛側カ如何二方法ヲ講スルモ我方トシテ之ニ

應シ得サル次第ヲ述ヘ佛政府ノ反省ヲ促シタル處「マ」ハ

佛政府トシテモ事態斯クナル以上ハ法律論ヲ離レ應急ノ措

置ヲ執ルコトトスヘシト答ヘタルニ付本使ハ我方トシテモ

殊更事ヲ荒立ツルノ意思ナキニ付佛側ノ申出ハ早速本國政

府ニ電報スルコトトスヘシト述ヘ置キタリ

惟フニ今回政府ノ執ラレタル斷乎タル措置ハ鮮カラス佛側

ニ壓力ヲ加ヘ頗ル效目アリタル様觀測セラルルニ付今後モ
引續キ無言ノ威壓ヲ加ヘラレ先方ヲシテ自發的ニ退去セシ
ムルカ如ク導カルコト適當ト存ス唯此ノ際急激ニ手荒ナ
ル手段ニ出テ先方ノ面子ヲ傷ケルコトハ本件ノ圓滿解決ニ
甚タシキ障碍トナルヘキニ付右御含ノ上海軍側ト毛御聯絡
相成様致度ク右卑見御參考迄申添フ

ムルカ如ク導カルコト適當ト存ス唯此ノ際急激ニ手荒ナ
ル手段ニ出テ先方ノ面子ヲ傷ケルコトハ本件ノ圓滿解決ニ
甚タシキ障碍トナルヘキニ付右御含ノ上海軍側ト毛御聯絡
相成様致度ク右卑見御参考迄申添フ

河内ヨリ西貢へ轉電セリ

河内へ轉電セリ

河内ヨリ西貢へ轉電アリタシ

1169 昭和13年8月24日

宇垣外務大臣より
在仏國杉村大使宛（電報）

新南群島での不祥事件発生を避けるため自発的に撤退するよう仏国政府へ申入れ方訓令

本省 8月24日後8時40分発

第二八七號

一、廿三日佛商船 Francis Garnier (一四〇〇噸西貢ヨリ出帆)

「イツアバ」島東端佛人部落南方附近ニ投錨、上甲板ニ
多量ノ建築材料ヲ搭載セルヲ認メタルニヨリ勝力艦長ハ
カツリキ

右ニ付何分ノ指示ヲ求メ來レリ

1 新南群島の日本領土への編入問題

三、依ツテ海軍省ヨリ帝國政府ハ目下佛本国ニ對シ施設、人員ノ撤退方申入中ナレバ政府間ノ談合纏マル迄材料ノ陸揚ヲ中止スベク右ニ不拘強行陸揚ヲ行フ時ハ厄介ナル事態ヲ生ズベキヲ警告ストノ趣旨ヲ佛船ニ申入レシメ同時ニ同船ヲ監視シ先方ガ强行陸揚セル場合ニモ貴電第五一六號末段ノ趣旨ニ鑑ミ實力ヲ以テ之ヲ阻止スル如キ行動ニハ出デザル様訓令セリ

三、右ノ如ク我方トシテハ不測ノ事端ヲ避ケル様自制シ居ルニ不拘佛側ガ引續キ既成事實ヲ強化セントスル如キ態度ニ出デ來ルハ日本側ノ穩健ナル取計ヒヲ切望スルト共ニ法律論ヲ離レ應急ノ措置ヲ執ルコトスベシト「マ」次官補ガ述ベタル趣旨ニモ反スル次第二シテ佛側ガ積極的態度ニ出ヅレバ自然我方トシテモ之ガ對抗策ヲ採ラザルベカラザル結果何等不祥事ヲ惹起スルナキヲ保シ難クステハ兩國親善關係ノ爲甚ダ不幸ナルヲ以テカカルコトナキ様佛側ノ自發的撤退ヲ希望スル旨至急申入レラレ度四、尙十九日在京佛大使堀内次官ヲ來訪シ日本本軍艦ノ「イツアバ」島入港ニ關聯シ新南群島ハ佛ノ主權ニ屬ストノ趣旨ヲ繰返シタル覺書ヲ手交シ我方ノ注意ヲ喚起シタルニ

1170

昭和13年9月13日

宇垣外務大臣より
在仏国杉村大使宛(電報)

新南群島の領有権を正式に主張する必要を認
め銳意研究中につき論拠等氣付きの点を回示

方訓令

本省 9月13日後6時30分発

第三〇五號(極祕)

貴電第五四一號ノ二二關シ

新南群島ニ對シテハ帝國トシテハ佛ノ主權主張ヲ極力否認スルト共ニ他方同島ヲ事實上占有シ佛側ニ對抗シ來リタルモ積極的ニ同島ヲ日本ノ領有ナリトハ主張シタルコトナシ今回佛側ガ同群島二人及船ヲ派遣セルハ現狀ヲ破り佛ノ主

對シ次官ヨリ日本ハ從來ヨリ佛ノ主權ヲ認メザル態度ヲ堅持シテ渝ラズ詳細ハ我方回答ニテ承知セラレ度ト述べ(八月二十二日附ニテ先方第三次申入ヲ反駁ス)最後ニ佛ガ事變中好ンデ新事態ヲ惹起シ來リタルハ甚ダ面白カラズト指摘セリ

河内ニ轉電シ西貢ニ轉報セシム

張ヲ鞏化セントメノ手段ナルヲ以テ之ガ撤退ヲ要求シ居ル

次第ナル處我方トシテハ本問題ノ有利解決ノ爲ニハ結局同群島ノ領有權ヲ正式ニ主張スルノ要アルヲ認メ目下法律上其ノ他ノ研究ヲ進メ居ル次第ナリ就テハ如上ノ方針御含ミノ上貴使ニ於テモ我方領有權主張ニ有利ナル事例及論據何等御氣付ノ點アラバ回電アリ度

(欄外記入)

本件ヲ余り明白ニ法律上ノ論争トスルコトハ結局司法解決ノ問題ヲ誘起シ仲裁裁判ニ紛争ヲ附託スベシト佛側方提議シ來ル場合困惑スル羽目トナルベシ佛側公文ガ法律論ニ終始シ居ルハ其ノ底意アルニ非ルヤラ疑ハシムルモノアリ(杉原條約局第二課長サイン)



1171 昭和13年12月23日 閲議決定

「新南群島ノ所屬ニ關スル件」

新南群島ノ所屬ニ關スル件

別紙外務拓務兩大臣請議新南群島ノ所屬ニ關スル件ヲ審査

スルニ右ハ

一、南支那海中北緯七度乃至十二度東經百十一度乃至百十七度即チ略々佛領印度支那ト比律賓群島トノ中間ニ存スル新南群島ハ從來無主ノ礁島トシテ知ラレ大正六年以降本邦人ハ外國人ガ全然之ヲ顧慮セザル前ニ於テ之ニ巨額ノ資本ヲ投下シ恆久ノ施設ヲ設ケテ帝國政府ノ承認及援助ノ下ニ其ノ開發ニ從事シ居リタル次第ナル處昭和四年經濟不況ノ爲施設ヲ其ノ儘トシ一時前記本邦人ガ群島ヲ引揚ゲ居リタルニ乘ジ佛國政府ハ昭和八年突如軍艦ヲ派シテ之ヲ占領シ國際法上無主ノ土地ナリトシテ其ノ佛國主權ニ歸屬スベキ旨ヲ宣言シ次デ之ヲ佛領印度支那政廳ノ所轄トシタリ

二、元來本件礁島ハ前述ノ如ク其ノ實際ニ於テ帝國ノ領土ニ屬スベキモノト認メラレタルモ帝國政府ニ於テハ機微ナル國際關係ヲ刺戟セザランコトヲ欲シ其ノ先占ヲ公ニ宣言スルノ行爲ニ出デザリシモノナル處佛國政府ハ右ノ事情ヲ顧慮セズ上述ノ如キ措置ニ出デタルコトハ帝國政府トシテ之ヲ容認シ得ザリシヲ以テ直チニ佛國政府ニ對シ領有宣言ノ撤回ヲ考慮スル様友誼的ニ申入レ本件島嶼ノ

佛側先占ハ之ヲ認メザルノ態度ヲ持スルト共ニ各般ノ措置ヲ講ジテ帝國側ノ先占ヲ確保シ以テ今日ニ及ベリ而シテ昭和十一年本邦人ガ再ビ同群島ニ於テ開發ニ從事スルヤ佛國政府ハ之ニ對シ數次本件島嶼ニ於ケル佛國ノ主權ヲ主張シ最近ニ及ンデハ商船ヲ同島ニ派遣シ施設ヲ構築スル等我方ノ勸請ヲ無視シテ著々同島ノ占領ヲ實效的ナラシメントシツツアリ帝國政府ニ於テハ此ノ事態ニ深ク稽ヘ各般ノ措置ヲ講ジテ同島ノ占有ヲ確保スルニ遺憾ナキヲ期シタル次第ナルガ佛國政府ノ高壓策ニ對抗スルノ建前ヨリシテ此ノ際佛國ガ領土權ヲ主張スル諸島及右ト一連ノ新南群島諸島ガ帝國ノ所屬タルコトヲ確定スルコト必要トナレリ

三、就テハ前記新南群島諸島ハ別紙ノ名稱ノ下ニ之ヲ自今臺灣總督府ノ所管トナサントスト謂フニ在リ

案スルニ同群島ハ如上ノ經緯ニ顧ミ當然我ガ領土ニ屬スルモノト認ムベク此ノ際ニ二對スル行政上ノ管轄ヲ確定セントスル請議ノ趣旨ハ相當ノ儀ト思考セラルルヲ以テ本件ハ請議ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

1172

昭和14年1月26日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

新南群島のわが國領土編入の発表は米國世論
への影響を勘案し米国議会でのグアム島防備
案の討議決着後とされたき旨意見具申

ワシントン 1月26日後發

本 省 1月27日前着

第八一號(極祕)

貴電合第八一號ニ關シ(新南群島帝國領土編入ニ關スル件)
目下當國議會ニ提案セラレ居ル「グアム」島防備案ニ付贊
否兩論アルハ累次ノ往電ニ依リ御承知ノ通リニシテ現ニ政
府部内ニ於テモ海軍側ハ強ク右案ノ成立ヲ要望シ居ルモ國
務省方面ニ於テハ對日關係ヲ考慮シ之ニ反對シ居ル者アル

追テ本件ハ昭和六年ニ於ケル沖ノ鳥島ニ關スル先例ニ準
ジ裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

編注一 本閣議決定は、十二月二十七日に裁可された。

二 本文書は、国立公文書館所蔵「公文類聚」より採録。



カ如キ模様ナル處此ノ際本件新南群島ノ帝國領土編入ヲ發表スルニ於テハ當國一般ヲ刺戟シ海軍擴張論者ニ氣勢ヲ添へ現在ノ「グアム」防備ノ成立ハ素ヨリ之ニ輪ヲ掛クルカ如キ案ノ出現ヲ見サルヲ保セサル空氣ト認メラルニ付本件群島ノ帝國領土編入ノ發表ハ今期議會ニ於ケル本件防備案決定迄之ヲ差控ヘラル様致度シ

佛へ轉電セリ

佛ヨリ英、獨、伊ニ轉電アリタシ

1173 昭和14年1月27日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

日本が近く西沙諸島を併合し新南群島を占領

するとの報道につき報告

ロンドン 1月27日前發

第八一號

一般の情報

二十六日「イヴニングスタンダード」ハ日本政府ニ於テハ客月二十七日廟議決定ヲ見翌二十八日御裁可ヲ得タル西沙

島併合方針ヲ近ク實行ニ移スヘク右ニ際シテハ列國ニ對シ何等通告等ノ手續ヲ採ラス既成事實ヲ作ル方針ト見ラルル處同島カ香港、比島、佛印等ニ近接シ居ルニ鑑ミ日本側カ空軍根據地ヲ設定スルニ於テハ英佛米政府ハ何レモ同様ノ脅威ヲ蒙ルコトトナルヘント報シ尙外交界ノ消息ニ依レハ日本ハ近ク新南群島ヲモ占領スル模様ナリト報道セリ

1174 昭和14年2月4日

在米國堀内大使宛(電報)

新南群島の領土編入方針はグアム島防備問題

によつて変更されることはない旨通報

本 省 2月4日後8時10分發

第三七號(極祕)

貴電第八一號ニ關シ

本件ハ帝國獨自ノ立場ニ基キ諸般ノ情勢勘考ノ上決定セラレタルコト御承知ノ通ニシテ(編注一)「グワム」島問題ノ成否如何ニ依リ左右セラルベキモノニ非ザルノミナラズ「グワム」問題決定迄本件ヲ差控フル時ハ時期ヲ失スル虞アルト共ニ編入方針ハ既ニ客年末閣議ノ決定及御裁可ヲ經居ルヲ以テ

御來示ノ次第ハアルモ長キニ亘リ本件ヲ見合スコト困難ナリ
(編注二)

佛二轉電セリ

佛ヨリ英、獨、伊ニ轉電アリタシ

右撤回要求

本省 2月14日後5時45分発

第四七號(極祕)

(七カ)

新南群島ニ關スル一月九日附在京佛大使申入ニ對シテハ先方主張ヲ反駁スルト共ニ佛側ニ最後ノ反省ヲ與ヘ兼テ將來我方編入ノ際ノ理由ヲ鞏化スル意味合ヲモ含マセ二月十三

日附ニテ佛ノ領有主張ノ撤回方ヲ要請スル趣旨ノ回答文ヲ往電第四六號^(編注)會談ノ際本大臣ヨリ「アンリ」大使ニ手交シ置ケリ

び「此項「アメリカ」局長ヨリノ希望ニヨリ削除ス」との書き込みあり。

~~~~~

往電第四六號については、欄外に「歐ニ主管發電二月十三日大臣「アンリ」大使會談(海南島)要領」との書き込みあり。右會談については、「日本外交文書 日中戰爭」第三冊第1062文書を参照。

編注

昭和14年2月14日 有田外務大臣より  
在仏國宮崎臨時代理大使宛(電報)

在本邦仏國大使へ新南群島に関する同國主張

の撤回を要求する公文手交について

(付記)

歐三機密第四號

以書翰啓上致候陳者佛蘭西政府ハ昭和十四年一月九日附覺書ヲ以テ新南群島ニ對スル帝國軍艦ノ行動竝ニ同群島ニ對スル佛國領有主張ニ關シ帝國政府ノ注意ヲ喚起シ越サレ閱悉致候

昭和十四年二月十三日

外務大臣 有田 八郎 敬具

新南群島ニ對スル帝國軍艦ノ行動ニ關シテハ既ニ大正六年以來帝國臣民力帝國政府ノ支持ニ依リ嚴タル占有ノ事實ヲ

形成シ居レル群島ニ於ケル帝國ノ權益竝ニ帝國臣民ノ生命財產ノ保護ニ付帝國政府自ラ其ノ必要トスル措置ヲ採リタ

(欄外記入) ル迄ニ有之佛國政府ヨリ苦情ヲ受クヘキ筋合ニ非スト思考致候

帝國ガ新南群島ニ對スル佛國ノ主權ヲ認メ得サル次第八從來繰返シ貴國政府ニ明ニシ置タルコト御承知ノ通ニ有之右帝國政府ノ見解ハ今日尙依然トシテ之レヲ堅持スルモノニ候

帝國政府トシテハ傳統的日佛友好關係ノ維持及增進ヲ顧念

スルコト從來ニ渝ラサル次第ナルヲ以テ佛國政府ニ於テ帝

國政府ガ屢次反覆說述シタル我方主張ヲ容認セラレ新南群

島ニ對スル其ノ領有主張ヲ撤回セラルコトハ本件ニ對ス

ル最モ穩便且實際的ナル解決方法ト思考致候就テハ佛國政

佛蘭西國特命全權大使

「シャルル、アルセーヌ、アンリー」閣下

(欄外記入)

二月十三日「アンリ」大使有田大臣ト會見ノ際多少ノ説明ヲ加ヘテ手交セリ

1176 昭和14年3月28日 有田外務大臣より  
在仏國宮崎臨時代理大使宛(電報)

### 新南群島領有通告の実施予定について

本省 3月28日後9時30分発

第八二號(至急)

往電第四七號ニ關シ

我方撤回申入ニ對シ二月十七日附ヲ以テ在京佛蘭西大使ヨ

府ニ於テ至急右撤回ノ措置ニ出テラレンコトヲ要請致候右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

リ更ニ文書ヲ以テ帝國政府ガ新南群島ニ關スル佛國ノ主權ヲ承認セザル次第ヲ確認スルト共ニ本問題ヲ仲裁々判ニ附議センコトヲ提議シ來リタリ依ツテ我方ハ右ニ對スル回答ニ於テ仲裁々判附議ヲ拒否スルノ意思ヲ明ニスルト共ニ口頭ヲ以テ群島領土編入ヲ通告スル筈ナリ

尙英、米、獨、伊ニ對シテハ往電第一一號前段ノ通り申入レシムルコトトセリ

タキ旨ヲ附言シタリ

三、右ニ對シ「アンリー」大使ハ右編入ハ法律上ノ手續ヲ執ラレタルモノト思考スルガ日本ハ實效的占有(occupation effectual)ニモ同時ニ着手セラルモノナリヤト反問セリ依テ次官ハ我方ハ以前ヨリ實效的占有ヲ行ヒ居ルモノナルヲ以テ此點ハ問題トナラズ唯法律上ノ手續未了ナリシニ付今回之ヲ完了セルモノナリト述ベタルニ大使ハ其ノ儘引取リタリ

三、尙前記我方回答ハ次官ヨリ大使ニ手交セリ

(別紙)

新南群島問題ニ關シ澤田次官ヨリ

「アンリー」大使ニ申入レノ件

(一四、三、三一 歐三)

一、新南群島ノ問題ニ付テハ佛蘭西政府ハ去ル二月十七日書

翰ニ於テ帝國政府ガ佛ノ主權ヲ容認セザルコトヲ認メラルト共ニ本問題ヲ仲裁々判ニ附議スル用意アル旨ヲ示唆シ越サレタリ

(欄外記入二)

(欄外記入一)

1177 昭和14年3月31日 沢田(廉三外務次官)  
在本邦アンリ仏國大使 会談

### 新南群島の日本領土編入を在本邦仏國大使へ

#### 通告について

新南群島帝國領土編入ニ關シ

澤田次官ヨリ「アンリー」大使ニ通告ノ件

(一四、三、三一 歐三)

一、三月卅一日午前十一時在京佛國大使ノ來訪ヲ求メ澤田次官ヨリ別紙ノ通り我方第五次回答ノ内容ヲ讀ミ聞カセルト共ニ新南群島ヲ三月三十日附ヲ以テ臺灣總督府ノ管轄ニ編入ヲ了セル旨竝ニ右ノ次第ヲ佛本國政府ニ通報アリ

本件ニ關シ帝國政府ハ曩ニ二月九日附書翰ニ於テ佛國政

(十三)

府カ新南群島ニ關スル主張ヲ撤回セラルコトカ最モ穩  
便且實際的ナル問題解決ノ方法ニシテ亦傳統的日佛友好

關係ヲ維持増進スル所以ナル次第ヲ明ニシ至急右措置ニ  
出テラレンコトヲ要請致置キタルニ不拘佛國政府カ今尙

自說ヲ固持シ且前記我方ノナシタ穩當ナ申出ヲ拒否セラ  
レタルハ帝國政府ノ甚ダ意憾トスル所ナリ

尙本件ヲ仲裁々判ニ附議セントノ示唆ニ付テハ帝國政府

ハ右ヲ以テ本問題ノ圓滿解決ニ關シ貢獻シ得ルモノト思  
考セズ又右ニ附議スルノ必要ヲ認メザルモノナリ

三、次ニ帝國政府ハ本件ニ關シ爾今兩國政府間ニ無用ノ論爭  
ヲ繰リ返ヘスコトヲ避ケ問題ヲ最終的ニ決定スルノ必要  
ヲ認メ同群島ヲ三月三十日附ヲ以テ臺灣總督府ノ管轄ニ  
編入スルノ手續ヲ終了セルヲ以テ貴使ハ右ノ次第ヲ佛國  
政府ニ御通報相成度

(欄外記入一)

△  
國內法上ノ意味

(欄外記入二)

一ノ内容ハ次官ヨリ手交ノ我方回答ト同様ナリ

1178

昭和14年3月31日

在米國塊内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### 新南群島の日本領土編入を米国政府へ通告について

「ワシントン 3月31日後発

本 省 4月1日前着

第二六三號(至急)

貴電合第五七一號ニ關シ(新南群島帝國領土編入通報ノ件)  
須磨ヨリ「ウエルス」次官ニ會見ヲ申込ミタル處「ウエ」

ハ三十一日ハ他用ノ爲都合付カサル由ナリシニ付三十一日  
須磨「ハミルトン」極東部長ヲ往訪貴電第八四號、佛宛貴  
電第一二號其ノ他累次ノ關係電竝ニ公信ニ基キ從來ノ經緯  
ヲ英語ノ地圖ヲ示シテ詳細口頭ヲ以テ説明セル上帝國政府  
ハ三十日附ヲ以テ新南群島ヲ臺灣ニ編入(incorporate)セル

旨傳ヘ且其ノ要領ヲ記セル書物ヲ手交シテ辭去セルカ「ハ」  
ハ新南群島カ「パラワン」ニ近接セル點ニ氣付キ意外ノ面  
持ヲ示シタルモ右説明ヲ多トスル旨竝ニ上司ニ傳達スヘキ  
旨述ヘタル趣ナリ

右會談中日本ハ「スプラトリー」島ヲ併合(Annex)セル旨

## 1 新南群島の日本領土への編入問題

ノU、P電配達セラレ「ハ」ヨリ新南トノ關係ヲ質問シタ  
ルニ付「スプラトリイ」ハ其ノ島嶼ノ一ナル旨説明シ置キ  
タリ

英ニ轉電セリ

1179

昭和14年3月31日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

新南群島の日本領土編入を英國政府へ通告に

ついて

ロンドン 3月31日後発

本省 4月1日前着

第三三〇號

貴電合第五七一號ニ關シ(新南群島帝國領土編入通報ノ件)

三十一日岡本ヲシテ「ヒ」極東部長ヲ往訪セシメ貴電合第

八四號ノ趣旨ヲ適宜取捨シテ作成セル覺書ヲ手交シ帝國領

土編入ヲ通告セシメタル處同部長ハ本件ニ對シ英國政府力

如何ナル態度ヲ採ルヘキヤハ未タ承知セサルモ自分一個ノ

意見ニテハ日本政府力仲裁々判等ノ平和的解決手段ニ依ラ

スシテ此ノ際斯ル措置ニ出テラレタルコトハ不愉快不穩當

ニシテ遺憾ト言フノ外ナシ尙本件諸島ニ對シテハ英國モ古  
クヨリ主張ヲ有スト述ヘタルニ依リ岡本ハ右ハ初耳ナリ此  
等諸島ニ關シ英國力領土ヲ主張シタル事實ヲ承知セス日本  
人力此等諸島開發ニ着手以來我方調査ニ依リ從來無主ノ島  
嶼ナルコトヲ確メタルモノナリ覺書ニ説明セル通り今回我

方ノ採レル措置ハ正當ナル權限ニ基キ所屬關係ヲ明カニセ  
ルニ過キスト反駁シ置キタル趣ナリ

覺書郵送ス

米、佛ヘ轉電セリ

1180 昭和14年4月3日

在サンフランシスコ 有田外務大臣宛(電報)  
佐藤總領事より

新南群島領土編入に対する米國紙論調報告

サンフランシスコ 4月3日後発  
本省 4月4日後着

第六八號

新南群島領有ニ關スル我方聲明ハ當地方各紙ノ第一面ニ特  
報セラレ(二日及三日ノ華府通信ハ右聲明力同地新聞ヲ初  
メ議會方面ニモ相當大ナル反響ヲ與ヘ居ル旨報シ居レリ)

各方面ノ注意ヲ惹キ居ル處右ニ關シ三日「ニユース」紙上

「ヂヨン、トムソン」ハ大様左ノ通り論評セリ

シドニー 4月4日後発  
本省 4月4日夜着

日本ハ極東ニ於ケル自國勢力確保ニ關スル長期計畫ノ一部

第四二號

トシテ新嘉坡ヲ目標トシテ極東ニ於ケル歐米勢力ノ包圍策ヲ組織的ニ實行シ來レリ米國ハ曩ニ日本ノ南洋委任統治領ニ依リ極東ヨリ隔離セラレタルカ過去數ヶ月間ニ於テ日本ハ先ツ海南島ヲ占據シテ更ニ米國ノ比島ニ於ケル地歩ヲ脅カスト共ニ愈英領香港及佛領印度支那包围策ニ出テ今回ノ「スプラトリー」群島占據ニ依リ一層其ノ目的ヲ明カニセリ即チ之ニ依リ香港ハ全ク孤立狀態ニ置カレ佛印亦本國トノ聯絡ヲ絶タレントシツアリテ英佛兩國力右カ實現ノ事態ニ直面シ夫々現地防備及兵力ノ增强ヲ計リ居ルハ寧口當然ト言フヘシ

米、在米各領事(「ホノルル」ヲ含ム)へ暗送セリ

1181 昭和14年4月4日 在シドニー若松總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

新南群島領土編入に対する豪州紙論調報告

新聞ハ巴里電報トシテ佛海軍ハ一九三三年七月同島併合ヲ官報ニ公示シ之ニ對シ日本政府ハ抗議セルモ一九三五年其ノ反對ヲ撤回シ佛ノ領有ヲ認メタルカ其ノ後兩國間ニ論爭生シ佛國ハ客月仲裁裁判ニ附スヘキコトヲ提議セリト報シ又華府上院外交委員「クロード」「ペツパー」等カ日本ノ同島占有ニ依リ日本ノ最後ノ目的ハ比律賓及新嘉坡ニアルコト明白トナレリ若シ世界ノ列強カ之ヲ阻止セスハ日本ハ其ノ勢力擴張ヲ續ケ遂ニハ太平洋ヲ支配スルニ至ルヘク米國ノ貿易ヲ衰微セシムヘシトテ政府ニ對シ本問題ノ推移ニ付慎重考慮方申入レタリト報シ居レルカ四日ノ「ヘラル

## 1 新南群島の日本領土への編入問題

ド」ハ其ノ社説ニ於テ佛國ニ對スル日本ノ新ナル侮辱ト題シ日本外務省ハ佛國トノ不必要ナル論争ヲ避ケル爲同島ノ領有者ナキモノト認メテ之ヲ併合セル旨發表セルモ日佛間論争ノ記録及最近ノ歴史ニ徵シ日本側ノ口實ハ事實ニ反ストテ前記巴里來電ノ要旨ヲ掲ケ日本側カ一旦佛ノ領有ヲ認メ居タルコトヲ指摘シ

〔<sup>(2)</sup>〕「マラツカ」海峽ニ近キ同島ノ位置、河内、新嘉坡、「ボルネオ」油田及馬尼刺ヲ飛翔圈内トスル航空機ノ根據地トナルヘキ事實及海南島ヨリ更ニ南方七百哩ノ地點ニ日本軍ノ前哨ヲ置クコトナル事實ハ日本ノ動機ニ付更ニ疑惑ヲ増スモノナリ二月ノ海南島占據ハ佛國ヲ侮辱セルモノナルカ今次ノ舉ハ佛ニ對スル最上ノ挑發ナリ歐洲列強カ日本海軍力ノ南下ヲ許シ或ハ米國カ比島「ダヴァアオ」ノ日本人居住地ニ近ク日本ノ根據地建設ヲ黙過スルトセハ夫ハ驚クヘキコトナリ日本ノ蘭印ヘノ南進ハ今ヤ明瞭トナレリ尙日支事變ノ辛苦ニ稍自暴自棄トナレル日本カ歐洲列強トノ駆引上香港以南ノ支那海ニ足場ヲ作ラントシツツアルコトハ考慮ニ容ルル要アリ日本軍部ハ死力以上ノ賭事ヲ爲シ財政ノ危機迫レリト述ヘ更ニ北支ニ於ケル法幣問題及日蘇漁業問

題ヲ擧ケ何レモ日本側ノ意ノ如ク解決セサルコトヲ述ヘ右二問題並ニ上海租界治安問題ニ付日本カ退却ノ已ムナカリシト同様日本ハ列強ノ利益ヲ脅威スル其ノ他ノ要求モ引込メサルヘカラサルニ至ルヘシト論シタリ

尙同日ノ「サン」ハ新南島ノ占有ニ依リ日本ハ其ノ委任統治諸島ト共ニ比律賓ヲ包圍スルノ形ヲ取り來レルカ日本ノ南進ハ濠洲ニ重大影響アリ現在ノ兩國ノ親善關係モ事態ノ推移ニ伴ヒ著シク變化スル惧アリ濠洲ハ日本ノ進出ヲ中止スヘク同島ノ占有ハ濠洲ニ取り致國ノ滅亡及英波同盟ヨリモ重大事ナリトシ日本ノ南進繼續ハ濠洲國防計畫遲延ニ對スル一教訓ナリルヘシト論シ居レリ

1182

昭和14年4月4日

在仏國宮崎臨時代理大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### 新南群島領土編入に対する仏國政府の対応振

りにつき観測報告

パリ 4月4日後発

本省 4月5日前着

新南群島問題ニ對スル佛ノ出様如何ハ英米ノ態度ニモ依ル

ヘク遽ニ的確ナル判斷ヲ下シ難キ處歐洲政局ノ現狀就中伊

ノ強硬ナル要求ニ直面シ國論頓ニ外交問題ノ敏速明確ナル

處理ヲ要望シアル今日佛政府トシテ速ニ適切ナル對策ヲ講

セサルヘカラサル立場ニアルモ然リトテ何等實效的措置ニ

出ツルコトハ諸般ノ情勢ニ照シ問題トナラサルヘキヲ以テ

不取敢ノ處置トシテ先ツ以テ我方ニ抗議ヲ發出スル一方政

府ノ立場力抜差ナラヌ破目トナラサル様一般輿論ヲ刺戟セ

サルニ努メ「アバス」カ政府筋ノ主張乃至見解ヲ傳フル通

信ヲ殆ト配布シ居ラサルハ偶々政府當局ノ右意嚮ヲ反映ス

ルモノニアラサルカ、尙新聞ニ現ハレタル反映ハ累次往電

ノ通リニテ海南島問題ノ當時ニ比シ言フニ足ラス事態ノ

推移ヲ注視對處セんニアルヤニ認メラル當方一應ノ所見御

參考迄  
参考迄

1183

昭和14年4月4日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### 新南群島領土編入に対する英國紙論調報告

ロンドン 4月4日後發

本省 4月5日前着

第三四一號

往電第三三三號二關シ

四日「ガーディアン」社説ハ蘇聯ハ如何ニ侵略的國家ヲ遇

スヘキヤヲ示セリ即チ同國ハ漁業交渉ニ於テ終始強硬態度

ヲ持シ日本ノ威嚇ニモ屈セサリン結果遂ニ日本ハ讓歩セリ

之ニ反シ極東ノ「安定」ヲ信シタル佛國ハ其ノ保護領同様

ナル海南島ノ外「スプラトリー」島ヲモ日本ニ占領セラレ

自己ノ誤リタルヲ發見セリ日本今次ノ措置ハ獨逸式ノ外交

ニ倣ヒタルモノナルカ「ス」島ノ價值如何ハ別論ナリ燐礮

ハ存スルモ永久的ノモノニハアラス潛水艦航空機基地トシ

テハ小且暴露サレ居リ又戰時防衛スルニハ餘リニ日本ヨリ

隔絶シ居レリ然レトモ日本今次ノ併合ハ日本海軍ノ宿願タ

ル南進政策ト最少抵抗線ニ依ル進出主義トヲ示スモノトシ

テ意義アリト論シ、同日「クロニクル」ハ香港來電ニ依レ

編注 仏國政府の態度については、『日本外交文書 日中戦争』第三冊第1067文書を参照。



## 1 新南群島の日本領土への編入問題

ハ日本海軍ハ進ンテ英領「ボルネオ」、佛領印支間ノ一切ノ島嶼ヲ占領セントシツツアリ其ノ一部ニハ香港新嘉坡間ノ英交通路ヲ支配スル潛水艦基地ヲ設ケ得ヘシ尙比島ニテハ日本カ易々トシテ海南島及「ス」島ヲ占領シタルニ對シ憂慮增大シツツアリト報セリ

米、佛ヘ郵送セリ

1184

昭和14年4月5日

沢田外務次官  
在本邦アンリ仏国大使

会談

新南群島領土編入に關し在本邦仏國大使が抗議文提出について

付 記 昭和十四年四月四日付在本邦アンリ仏国大使

より有田外務大臣宛公信第一五号和訳文

右抗議文

新南群島問題ニ關シ「アンリー」大使、澤田次官ト

會談ノ件

(一四、四、五 歐三)

(編注)

四月五日在京佛國大使澤田次官ヲ來訪シ別紙抗議文ヲ手交

セリ

編注 別紙省略。和訳文を付記として採録。

(付記)

新南群島編入ニ關シ在京佛國大使抗議文假譯

(一四、四、六 歐三)

拜啓以書翰啓上致候陳者三月三十一日附通牒ニ依リ日本政府ハ新南群島ニ對スル佛國ノ主權ヲ容認セズシテ、兩國政府間ニ惹起セラレタル論爭ヲ仲裁裁判ニ附議スル事ヲ拒絶シ且同群島ヲ臺灣總督府ニ編入スルニ決定セラレタル趣佛國政府ニ於テ閱悉致シ候

佛國政府ハ亞細亞大陸ニ於ケル日本ノ政策ノ最近ノ展開ニヨリテ生ジタル困難ニモ拘ラズ日佛傳統的關係ニ基ク友誼的信賴及友好的理解ノ雰圍氣ヲ維持スペク常ニ努力ヲ繼續致シ候、幾多ノ機會ニ於テ又法律上何等ノ義務ナキニ拘ラ

其ノ際次官ハ新南群島編入ニ關シテハ帝國政府ハ確定方針ノ下ニ措置ヲ執リタルモノナルヲ以テ今更佛側ノ抗議ヲ受クルモ考慮ノ餘地ナキモ右ハ佛側 observation トシテ大臣ニ傳達スベシト述べタル趣ナリ

ス佛國政府ハ一九〇七年ノ日佛協約ノ精神ニ基キ兩國間ノ物質的及精神的利益ノ相互承認ノ政策ニ抵觸スル如キ凡ユ

ル行動ヲ回避シ來リ候

茲ニ於テ本件ニ關スル佛側ノ地位ヲ從來充分承知シ居ラルニ拘ラス帝國政府ニ於テ日佛兩國ノ傳統的關係ヲ離レ公

正及和平ノ觀念ヲ全ク無視セラレタル態度ニ出テラレタルハ佛國政府ノ最毛意外且遺憾トスル所ニ候

佛國政府ハ閣下ニ對シ本件決定ヲ容認シ得ストノ嚴重ナル抗議提出方訓令越シ候右決定ハ佛國ノ新南群島ニ對スル主

權ヲ如何ナル程度又時期ニ於テモ侵害シ得サル旨ヲ茲ニ確

言致シ候又右決定ヲ維持スル事ニ依リ帝國政府ガ對佛關係

ヲ新シク規律セラレントスル限ニ於テ佛國政府ハ極東ニ於テ現在提起サレ居ル各種問題ニ對シ從來執リ又ハ維持スペク考慮シ來リタル態度ニ付新ナル檢討ノ加ヘラルベキ事ヲ茲ニ留保致シ候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

四月四日(第一五號)

「シャルル、アルセーヌ、アンリー」

外務大臣 有田 八郎閣下

1185

昭和十四年4月12日 在英國重光大臣より

在英國重光大使宛(電報)

### 新南群島領土編入は容認できない旨を英國政

#### 府通報について

付記

昭和十四年四月十七日

井上(庚二郎)欧亞局長 在本邦ドッヅ英國代理

大使会談要旨

右編入經緯を英國側へ説明について

本省 4月12日後10時0分發

第九六號

一、十日在京英國代理大使「ドッヅ」(「クレーギー」支那旅行中)澤田次官ヲ來訪シ新南群島編入ニ關スル日本ノ主張ヲ容認シ得ザル旨ノ後記公文ヲ手交シ今次編入ニ關スル理由ハ諒解シ難シト述べタルヲ以テ次官ハ編入ノ理由ハ在英帝國大使館ヨリ説明セラレタル筈ニテ且日佛間ノ問題ニ關シ英國政府ガ日本ノ正當ナル主張ヲ容認シ得ズト言フガ如キハ我方ノ許容シ得ル所ニ非ズ殊ニ英國ハ嘗テ佛蘭西ガ領有宣言ヲナセル際何等抗議シ居ラザルニ拘ラズ今回突如カカル申出ヲナサレタルハ諒解シ難キ所ナ

リト駁シ置キタル趣ナリ

### 三、公文概要左ノ通り

英國政府ハ日本政府ノ主張ガ何等法的根據ヲ有スルコトヲ容認スル能ハズ且本件措置ハ極東ニ於ケル事態ヲ一層紛糾セシムルノミナルニ鑑ミ遺憾トス

### 三、尙右三對シテハ左記趣旨ニテ回答スルコトトセリ

本件措置ハ事實的及法律的根據ニ基ク正當行爲ナルノミナラズ日佛兩國間ノ問題ナルニ顧ミ帝國政府ハ英國政府ノ申出ノ根據ノ那邊ニアルヤ了解シ難ク尙本件措置ガ極東ニ於ケル事態ヲ更ニ紛糾セシムヘシトノ點ニ付テハ帝國政府ハ全然見解ヲ異ニス

佛・米ニ轉電アリ度

### (付 記)

新南群島問題ニ關シ井上局長、「ドツヅ」英參事官ト會談ノ件

(一四、四、一七 歐三)

四月十七日午後(五時頃)「ドツヅ」英國大使館參事官ノ來訪ヲ求メ井上局長ヨリ先日(十日)澤田次官ガ貴參事官ト會

見ノ際新南群島編入ニ關シ英國政府ハ充分「インフォーム」セラレ居ラザル様印象ヲ受ケタルガ一兩日中ニ外務省情報部長ヨリ本件ニ關シ新聞記者ニ説明ヲ行フベキヲ以テ予メ

貴參事官ニモ右説明資料ノ寫ヲ御渡シスル次第ナリトテ用意ノ「新南群島ノ行政管轄決定ノ件」(別紙參照)ヲ手交シタル處參事官ハ自分ハ次官ニ對シ英國政府ガ充分「インフォーム」セラレ居ラズト謂ヒタルニハ非ズ英國トシテハ日本方既ニ佛國ノ主張シ居ル土地ヲ其ノ後仲裁々判ニモ附セズ自國ニ編入セル其ノ「プロセデュア」ニ合點ガ行カヌ

次第ヲ語リタルモノナリト述ベタルヲ以テ局長ヨリ其ノ點ニ付テナラバ充分説明スベシトテ日本人ニヨル群島ノ占有及開發ノ歴史ヲ述べ日本トシテハ從來 *de facto* ノ關係ニアリシモ占有ノ時ヨリ領土權ニ關スル權源ハ發生スルモノニテ今回之ガ編入手續ヲ取レル事ニヨリ *de jure* モ之ヲ完成セルモノナル點ヲ說示セル處參事官ハ御話ニテ事態ガ大いニ「クリーヤ」トナリタルモ唯佛蘭西ハ承知セザルベシ又自分ニハ本件ガ只ニテ「セツトル」シタモノトハ思ハレズト言ヘルヲ以テ更ニ局長ヨリ今回ノ編入措置ニヨリ新南群島ハ事實上法律上兩方面ヨリ日本ノ先占ガ完成セルモノナ

リ無主ノ地ガ或ル國人ニヨリ永ク占有セラルレバ其ノ國ニ  
屬スルニ至ルハ當然ニシテ新南群島モ其ノ例ニ洩レズ且日  
本ハ事實的占有ニ基キ法律上ノ手續ヲトル筈ナリシガ其ノ  
途中ニ佛蘭西ガ「インテラプト」シ來リタル故問題ガ生ジ  
タル迄ニテ今回手續ヲ了セル以上佛蘭西ヨリ申出アルモ日  
本トシテハ受付ケザル次ニシテ又日本トシテハ本件ヲ仲  
裁々判ニ附スル用意ナシト述ベ置ケリ

尙參事官ハ本日ノ話ハ本國ニ電報スルモ差支ナキヤト問ヘ  
ルヲ以テ差支ナシト答ヘ置ケリ

### (別紙)

#### 新南群島ノ行政管轄決定ノ件

一、新南群島ハ南支那海中大約北緯七度乃至十二度、東經百  
十一度乃至百十七度二亘ル範圍ニ存在スル小礁島群ニア  
ル本群島ハ從來何國ニモ屬セサル無主ノ島嶼トシテ知ラ  
レテヰタモノテアルカ、大正六年以來我國人ハ何レノ他  
國人ニモ先立ツテ巨額ノ資本ヲ投下シ恆久的ノ諸施設ヲ  
設ケテ同群島ノ經濟的開發ニ從事シ來ツタ。帝國政府ト  
シテハ是等邦人ノ活動ヲ承認シ數次同島嶼ヘ軍艦ヲ派遣

シ又必要ニ應シ各般ノ援助ヲ與ヘ來ツタノテアルカ偶々  
昭和四年經濟不況ノ爲前記邦人等ハ施設ヲ其ノ儘トシ  
時群島ヲ引揚ケタカ近年再ヒ邦人ニヨル經濟活動ハ開始  
セラレ以テ現在ニ至ツテキル

二、本群島ヲ廻リ日佛間ニ紛争ヲ生シタノハ昭和八年以來ノ  
コトテ當時前記邦人事業者カ一時群島ヲ不在トセル隙ニ  
乘シ佛國政府ハ航路ノ安全ノ爲ト稱シ昭和八年突如一雙  
ノ軍艦ヲ同群島ニ派遣シ之ヲ佛國主權ニ歸屬スヘキ旨ヲ  
宣言シ日本政府ニ通告シ來ツタノテアル。帝國政府トシ  
テハ素ヨリ斯ル實際ヲ無視セル一片ノ通告ヲ容認シ得ヘ  
キ筈ナク當時直チニ佛政府ニ對シテ領有宣言ノ撤回方ヲ  
申入レタノテアルカ佛國政府カ右勸告ニ應シナカツタノ  
テ帝國政府ハ爾來群島ノ佛國側先占ハ之ヲ承認セストノ  
態度ヲ持シ他方ニ於テ各種ノ措置ヲ講シテ日本側ノ先占  
ヲ確保シ以テ今日ニ至ツタ

三、紛爭發生後佛國ハ何等ノ行動ニ出テナカツタノテアルカ  
日支事變起ルニ及ヒ再ヒ同方面ニ積極的活動ヲ開始シ曩  
ニハ西沙島ノ領有ヲ主張シタカ新南群島ニ對シテモ軍艦  
ヲ派遣シテ邦人ノ活動狀況ヲ調査シ或ハ商船ヲ派シテ人

及材料ヲ上陸スル等同島ノ占有ヲ實效的ナラシメントス

ルノ氣配ヲ示シタ我方ハ右佛側策動ニ對シテハ直チニ佛

國政府ニ嚴重抗議スルト共ニ帝國軍艦ヲ派遣シ邦人ノ安

全保護及帝國權益ノ確保ニ付萬全ノ措置ヲ講シタノテア

ル

四、抑々帝國ト新南群島トノ關係ヲ考フルニ帝國力群島ニ對

シ有スル長年月ニ及フ事實關係竝ニ國際法上ノ權源ハ嚴  
トシテ動カスヘカラス從ツテ群島ハ其ノ實際ニ於テ帝國  
領土ニ屬スヘキコトハ當然デアルカ未タ行政上ノ管轄關  
係力確立シ居ラサル點ニ於テ佛蘭西トノ關係ニ於テ無用  
ノ紛糾乃至ハ摩擦ヲ生シタノテアル依ツテ此ノ際新南群  
島ノ行政管轄ヲ確立シ内外ニ對シテ其ノ所屬關係ヲ判然  
ナラシムルコトカ最モ必要且適切ナリト認メラルニ至  
ツタノテ今般群島ヲ臺灣ニ編入スルコトトナツタ

五、尙新南群島ハ其ノ經濟的並ニ交通上ノ關係ヨリ之ヲ臺灣

高雄州高雄市ノ管轄區域ニ編入スルコトセリ



昭和14年4月16日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛（電報）



## 米國艦隊の太平洋帰還續上げに関する観測情 報報告

ワシントン 4月16日後發  
本 省 4月17日前着

### 第三〇七號

#### 往電第三〇六號二關シ

本件米艦隊ノ太平洋歸還繰上ニ付テハ政府當局ニ於テ一切  
其ノ理由ノ説明ヲ避ケ居ル趣ナルモ右カ大統領ノ獨伊ニ對  
スル申入ト相關聯スルコトハ疑ノ餘地ナク蓋シ申入ニ迫力  
ヲ附ケントシタルモノニシテ識者ノ間ニ於テハ近來新南群  
島迄進出シ比律賓、佛印蘭印一帶カ日本ノ海軍力ニ制壓サ  
レ居ル情勢ニ鑑ミ萬一歐洲ニ事ノ起ル場合英國ヲシテ後顧  
ノ憂ナカラシムルト共ニ米國トシテ必要ナル護謨及錫ノ輸  
送路ヲ確保スル爲ノ用意ニ出ツルモノ等取沙汰セラレ居ル

趣ナリ

英ヘ轉電シ紐育ヘ暗送セリ  
英ヨリ佛、獨、伊ヘ轉電アリタシ



1187 昭和14年4月(19)日

在サンフランシスコ佐藤総領事より  
有田外務大臣宛電報)

### 米国艦隊の太平洋帰還繰上げに関する米国紙

#### 論調報告

サンフランシスコ 発

本省 4月19日後着

#### 特情桑港第九號

十八日附「サンフランシスコ、ニューヨーク」紙ハ米國艦隊ノ

太平洋廻航命令ニ關スル論評ヲ掲ケ左ノ如ク論シテ居ル

米國艦隊ノ一部太平洋廻航命令ニ關シテハ各種ノ批評力行

ハレツツアルカ右カ米海軍ノ一重要軍事工作ナルコトハ明

カテアル日本海軍ノ南進政策ハ最近ニ於ケル海南島及新南

群島ノ占領、日本本土ト南洋「サイパン」島トヲ結フ新航

空路ノ開設等各種軍事的措置ニ依リ着々具體化シテ居ルカ

是等諸島ノ占領ハ蘭印ノ油田獲得、新嘉坡抑制等ヲ目的ト

スル日本年來ノ計畫ニ基クモノテ本計畫最後ノ成否ハ一二

歐洲政局ノ動キ如何ニ懸ツテ居ル是等ノ問題ニ付米海軍ハ

何ノ程度迄關係シテ居ルカ或ハ英米兩海軍間ニ如何ナル諒

解カアルカニ付テハ勿論公式ノ發表ハナイカ新情勢特二日

本ノ前記新航空路ノ如キハ米國、比島間ノ航空路ヲ完全ニ  
横切ツテ居ルノミナラス軍用航空路タルノ疑濃厚ナルモノ  
カアルノニ鑑ミ米國トシテモ相當關心ヲ持ツヘキハ當然テ  
アル

1188 昭和14年5月18日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

#### 新南群島領土編入は容認できない旨を米国政

#### 府通報について

ワシントン 5月18日後発

本省 5月19日後着

#### 第四一六號

往電第二六三號ニ關シ(新南群島帝國領土編入通報ノ件)

國務長官ヨリ本使宛十七日附要旨左ノ書翰(原文寫郵送ス)

送達越セリ

米國政府ハ一九三三年佛國政府ヨリ本件覺書中ノ區域ノ西  
側ニ位スル特定島嶼ニ對シ同國政府ノ主權ヲ主張スル旨ノ  
通報ヲ受ケ更ニ最近同國政府ヨリ本年二月二十七日日本政  
府ニ對シ本件紛議ヲ海牙常設司法裁判所ニ附議スヘキコト

# 1 新南群島の日本領土への編入問題

ヲ提議セル旨ノ通報ヲ受ケタリ日佛間主張ノ相違ノ當否ハ

暫ク措キ米國政府ハ國際間ノ問題ハ交渉、協定又ハ仲裁ニ依リ調整スヘキコトヲ唱道スルト共ニ覺書中ノ廣汎ナル區域内殊ニ名稱ヲ擧ケタル島嶼ノ東方及東南方ニ當ル相當範圍ノ區域内ノ總テノ島嶼又ハ珊瑚礁カ一群島トシテ正當ニ

取扱ハレ得ルモノト思考セス又日本政府カ主權ヲ主張スル根據ヲ正當ト看做サルヘキ何等ノ行動ヲモ從來執ラサリシ島嶼又ハ珊瑚礁ヲ一括其ノ領域ニ編入セル措置ハ何等國際的效力ヲ有セスト思考ス

本件ニ對スル米國政府抗議(六月十二日附歐三機密合第二九九六號參照)ニ關聯スル我方措置振ニ付テハ先般關係省會議ニ於テ對米回答ハ現下機微ナル日米關係ニ鑑ミ當分之ヲ見合スト共ニ其ノ間我方ニ於テ同群島ノ實效的占有ニ必要ナル措置ノ充實方可然トノコトニ意見一致セリ

貴總督府ニ於テ新南群島ニ對シ既ニ實施セラレタル事項及將來實施セラルヘキ事項ニ關シ七月十四日附貴信官外第三九〇號及同月二十六日附貴信外發第一四八六號ヲ以テ御通報相成リタル所ニ依レハ現在迄同群島ニ實施セル我方施設警察官及氣象觀測ノ爲ノ技師各々三名ノ派遣以外ハ其ノ殆ト全部カ私的營造物ナル處本來先占ノ條件ノ一タル實效的占有ハ公的權力ノ樹立及維持ニ存スルヲ以テ今後邦人ノ活動及其ノ爲ノ各種施設ヲ充實セシムル外尠クトモ(長島ヲ中心トシ必要ニ應シテ何時ニテモ各地ニ權力ヲ及ホシ得ルノ用意ト設備(群島内ノ定期的巡邏(各島嶼ニ帝國領土タルコトヲ示スヘキ標識ノ建設等ノ措置ハ成ルヘク速ニ實施方御考慮相成度右ハ前記會議出席ノ拓務省係官ニ對シ貴府へ通報方依頼濟ナルモ爲念此段申進ス

1189

昭和14年9月6日

西歐亞局長より  
千葉(葵)台灣總督官房外務部長宛

新南群島領土編入に対する米國抗議への対応  
方針について

歐三機密第二六三號

昭和十四年九月六日

外務省歐亞局長 西 春彥

臺灣總督官房外務部長 千葉 葵一殿

新南群島帝國領土編入ニ關スル件